

2021 年度 学術交流支援資金 研究報告書

科目名： アカデミックプロジェクト 外国語教育デザイン
Language Learning & Teaching Design

研究課題： 言語横断的な外国語教育デザインの構築および実践(2)

研究組織

研究代表者 藁谷郁美 (総合政策学部 兼 政策・メディア研究科 教授)
共同研究者 國枝 孝弘 (総合政策学部 兼 政策・メディア研究科 教授)
西川 葉澄 (総合政策学部 兼 政策・メディア研究科 専任講師)
清 木 康 (SFC 研究所 特任教授)
倉林 修一 (環境情報学部 非常勤講師)
佐藤 友紀子 (政策・メディア研究科 特任講師)
Stefan Brückner (政策・メディア研究科 特任助教)
藤 谷 悠 (政策・メディア研究科 博士課程 3 年)
松木 瑤子 (政策・メディア研究科 博士課程 3 年)
Dehlwes Jan-Niklas (政策・メディア研究科 修士課程 1 年)
丸山 倫 (政策・メディア研究科 修士課程 2 年)
Cheng Cheuk Kiu (政策・メディア研究科 修士課程 2 年)
* 申請時は修士に在学中, 9 月に卒業
上原 沙英 (政策・メディア研究科 修士課程 1 年)
内野 愛里奈 (政策・メディア研究科 修士課程 1 年)
李 家慧 (政策・メディア研究科 修士課程 1 年)
曹 菲宇 (政策・メディア研究科 修士課程 1 年)
麻野 祥子 (政策・メディア研究科 修士課程 1 年)

研究概要

アフターコロナに向けた新たな言語学習環境の構築は、急務を要する重要な課題である。昨年度から継続するサイバー空間における学習環境の展開が日常化しつつある現在のフォーマルラーニングの構築を、実践を通して探究する。

本アカデミックプロジェクト「外国語教育デザイン Language Learning & Teaching Design」は 2017 年度の立ち上げから今年で 5 年目を迎え、継続して取り組んでいる外国語教育の環境構築 (教材開発)、システム調査 (人材育成)、外国語教育に関連する隣接分野との連動を目指した共同研究ネットワークの開拓と拡大を進めている。キャンパスでの活動がオンライン中心になって 2 年目を迎え、サイバー空間での研究報告やディスカッションについても共有の経験知を蓄積しつつある。

コロナ感染拡大の影響下、仮想空間を教室内授業として運用する状況のなかで外国語教育デザインの姿は急速に変化を求められている。本 AP プロジェクトは、すでに着手している外国語教育の環境構築 (教材開発)、システム調査 (人材育成)、外国語教育に関連する隣接分野との連動を目指した共同研究ネットワークの開拓と拡大を新たな視座を踏まえつつ継続して進める。特に独仏語圏の教育機関との研究者レベルでの交流および教育レベルにおける大学院生の協働研究の安定した人的ネットワークの獲得を目指す。

1. 本研究の目的と背景

本アカデミックプロジェクト「外国語教育デザイン Language Learning & Teaching Design」は2017年度春学期から立ち上げをおこない、今年度で5年目を迎えた。本APで活動する教員は、多言語分野において外国語教育の環境構築および教員養成に重点を置く点で共通項を有し、SFC政策・メディア研究科および学部全体の外国語教育研究の知見と実践（運用）を活動の基盤とする。我々を取り巻く実空間・仮想空間がグローバル化する中で、多言語・多文化社会（コミュニティ）の理解、他者とのコミュニケーション能力は、いっそう重要視される。多様な言語を切り口にした外国語教育は、この社会様々な局面・現場でリーダーシップを持って課題を解決できる人材育成を目指す。同時に、実践面だけではなく、定量的実験研究・定性的実践研究等を遂行するための外国語教育研究の基本を指南する。

本APの活動は大学院科目「ITと学習環境」と有機的に連動しており、サイバー空間における学習環境の構築を異なる分野の教員が共同で担当することにより、分野横断的な研究の視点を、実践をもって共有する場が実現している。外国語教育研究の分野における学習教材開発、教授法考察、システム開発、評価手法開発等、情報領域の革新に伴う変化はきわめて大きく、教育学や認知科学の領域に横断的な実証的研究が増大傾向にある。しかしながら、学習とは学習者が社会的な状況の中で実体験を通して自らの知識を再構築していくものであるとする構成主義のコンセプトは、インターネットを利用した授業実践においてはすでに多くの試みが行われているものの、教室環境を離れた日常の文脈における状況依存型の学習支援環境という点では未だ実現化しておらず、そこで予測しうる学習者の言語運用能力と新たな学習環境との関連性は未だ実証されていない。本構想（図1）に示す通り、外国語教育がおこなわれるフォーモラルラーニングとしての実空間の整備および



図1 外国語教育デザインの構築と構想

フォーモラルラーニングに準拠した仮想(サイバー)空間の多様化は自律学習環境の成長型構築モデルとして運用されている。従って学習者のネットワーク上の言語産出プロセスが他の外国語学習者の「学び」に資するものとなるようなICT学習環境の構築は、困難な状況であった。背景には学習者が日常的におこなう仮想空間における外国語を介したコミュニケーション行動が、いわゆる学習環境の枠内で発生する現象としては把握が困難であり、データとして可視化することが試みられていなかったことが要因にある。本研究は、体系的な構成要素を成す外国語学習環境モデルの構築・運用・評価を目指す。その際、本研究推進のための前提として、外国語教育を共通とする海外教育機関との多様なネットワークの構築・拡大が重要となる。

2. これまでの取り組みおよび活動範囲

2.1 今年度(2021年度)の教育・研究活動内容

2021年度は 教育活動および研究活動、2本の柱で引き続き以下の領域を重点的な活動範囲とした。海外教育機関の拠点の拡大および研究・教育両者の並行した活動を効率的に実践することについては、前年度から継続して活動をおこなっている。教育活動については、オンライン中心の会合形式で今年2年目となり、共同発表の際の手法、ディスカッション

ョンとコメント、フィードバックの記録の方法についての経験を踏まえた活動ができたと考えている。各自の研究発表は Zoom 空間で実施し、発表資料の共有並びにコメントの共有は Slack 上に開設した AP-Workspace に展開することで、時間枠外での学生間の相互のコメントやフィードバックのやりとりをスムーズに行うことができたと思う（図 2 及び図 3 参照）。



図 2 AP 会合の様子



図 3 AP 内の Slack Workspace

以下にそれぞれの活動実績を記す。

2.2. 教育活動の実績

2021 年度の取り組み内容は、a) 大学院生の研究発表・議論を中心に進めた授業としての研究会合、b) 各大学院生の学位取得に伴う各要件取得の状況確認、c) 大学院生及び教員を対象にしたゲストスピーカーによるレクチャー、d) 海外の教育・研究機関との交流に関連する活動に分けられる。

a) および b) については、研究発表の場を大学院生の中間発表や最終発表（修士）、ならびに公聴会や最終試験（博士）のスケジュールにあわせて実施し、博士および修士課程在籍中の大学院生の研究発表を中心に、本 AP の教員と共に議論する場を継続開講してきた。ここでは、各学生の研究内容に関して多分野横断的な視点から議論される機会を得たことは重要である。同時に、研究内容のみならず、修士および博士学位取得に至るまでの実質的プロセスを相互に確認できる場であることも、本 AP プロジェクトの担う重要な役割であると考えられる。特に各自の口頭発表のシミュレーションやディスカッションをおこない、多様な教員や学生諸君の意見・コメントを共有することができたことは、きわめて貴重な機会であったと考える。2021 年度は本 AP から修士号学位取得者 2 名（春学期 1 名、秋学期 1 名）を輩出した。

なお、本プロジェクトの人材育成の実績としては、サブメンバーとして指導的立場で参加してきた政策・メディア研究科助教の ステファン・ブリュックナー君 が SFC のドイツ語非常勤講師として教歴を重ねながら、2022 年度 4 月着任で他の教育機関に専任教員として任用されることが決まったこと、サブメンバーの政策・メディア研究科特任講師の 佐藤友紀子君 が同様に SFC のドイツ語非常勤講師として教歴を重ねながら、2022 年度 4 月着任で他の教育機関に有期専任教員としての任用が予定されていることが挙げられる。また博士課程在籍中の 松木瑤子君 は、フランス語教員免許の取得を果たし、昨年度に引き続き中等教育機関にてフランス語教員として活動している。同じく博士課程に在籍中の 藤谷悠君

は、研究分野の一部であるアカデミック・ライティングの授業を他大学の非常勤講師として担当している。

上記の人材育成実績は、このアカデミックプロジェクトで培ってきた多様な分野の教員による共同指導体制、ならびに複数の大学院生との協働学習環境が成した成果であると考えられる。

c) 大学院生及び教員を対象にしたゲストスピーカーによるレクチャーとして、2021年度は「学習環境をデザインするとは何か？」をテーマに望月俊男氏（専修大学准教授）を招いた（2021年10月27日2限）。図4は、本APの大学院関連科目「ITと学習環境」の枠内で開催したオンラインによるレクチャーで学生と教員が協働学習をおこなった際の画面の一部である。望月氏はSFC環境情報学部及び政策・メディア研究科（修士）の卒業生であり、かつてSFCスペイン語学習環境の構築を手がけていた背景をもつ。現在は日本教育工学会の学会活動を通じた教員とのつながりもあり、今後の共同研究の可能性も期待される。

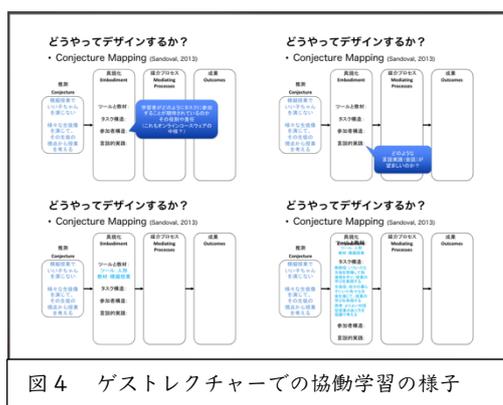


図4 ゲストレクチャーでの協働学習の様子

d) 海外の教育・研究機関との交流に関連する活動について

ドイツ語圏では、これまで継続してきたドイツ州立ハレ大学(Martin-Luther-Universität Halle-Wittenberg)およびドイツ州立ドレスデン工科大学(Technische Universität Dresden)東アジア研究所(Ostasienzentrum)との共同授業実施が Polycom

から Zoom 使用の形態で継続された。同時に2019年度にスタートしたドイツ州立トリアー大学(Universität Trier) 日本学研究所との共同授業実施締結（ドイツ語圏）が、2021年度もオンライン共同授業開講を継続して実施しており、次年度に向けての共同実施が既に決定している。今後、この実績を積み重ねることにより、正式な大学間の交換協定に結びつけることも視野に入れる。

フランス語圏では、日本政府の新規留学生受け入れ停止によって中断していたレンヌ経営大学院との短期留学生交流制度を再開するために、この2月に再び協定書を取り交わした。

2.3. 研究活動の実績

言語教育関連の実績内容の発表の場としては、2021年10月9日にオンラインの形で開催された国際シンポジウム (DAAD-Fachtag E-Learning offline und online)における招待講演



図5 ドイツ学術交流会(DAAD)主催のドイツ語教授法シンポジウム(オンライン)

が挙げられる(図5)。このシンポジウムは、ドイツ語教育に教師として関わるドイツ語母語話者を中心とした聴衆を対象にしたものであった。ここでは、アフターコロナの時代における大学教育機関のオンライン及びオフラインの教育環境をテーマに、ドイツ語教育の自律学習に特化した内容について発表をおこなった(藁谷郁美&アンドレアス・マイヤー:「Autonomes Lernen und Selbststeuerung - Hybrides Lerndesign für den Deutschunterricht an einer japanischen Hochschule」)。発表後には、オンラインによる活発なディスカッションの時間も設けられ、今後の人的ネットワークの構築にも繋がる機会を得た。

は、オンラインによる活発なディスカッションの時間も設けられ、今後の人的ネットワークの構築にも繋がる機会を得た。

その他に、外国語教育研究の分野では、2021年8月に刊行された論文 "Kommunikationsverhalten und Lernstrategien von Lernenden am Beispiel von deutsch-japanischen Telekollaborationsprojekten" (Andreas Meyer & Ikumi Waragai) が挙げられる。これは「アフターコロナ」の時代に向けた日独共同授業（オンラインゼミ）のこれまでの実施データと比較し、サイバー空間を教室内の学びとして新たな可能性を提示するもので、2020年10月に国際シンポジウムで発表した内容を踏まえて論文として刊行されたものである（「Lektorenrundbrief Nr. 54. LeRuBri August 2021, pp.18-24.）。

フランス語教育の分野では、2020年よりオンラインの形で行われた複数のフランス語教育に関する研究会において口頭発表がなされたが、それらの成果としてオンラインでのフランス語学習に関する論文が2021年6月（西川葉澄、茂木良治、小西英則「遠隔でどのようにフランス語を教えるか」、*Etudes didactiques du FLE au Japon*、第30号、2021年6月、pp. 17-28.）に、オンラインでのクラスコミュニティ作りに関する論考が2021年7月（西川葉澄「オンラインの授業と学びのコミュニティ：「快」の記憶と仲間作り」、*Rencontres*、第35号、2021年7月、pp. 50-54.）に刊行された。

3. 今後の展望と本研究の位置付け

本アカデミックプロジェクトは、従来のプロジェクト科目で活動をおこなってきた枠組みを超越し、外国語教育のあらたなヴィジョンを提示することを共通の目的に結成された研究グループである。2021年度の参加メンバーであった大学院生の多くは他のアカデミック・プロジェクトにも複数参加しており、分野横断的な共同指導体制のなかで有益な示唆を受けながら修士論文もしくは博士論文の執筆を進めている。今年度の本 AP からの博士 Thesis Proposal 発表者1名、修士号取得者は2名である。来年度も複数の博士・修士学生が加わることが見込まれる。

将来的には、学生との協働研究活動のみならず、広く社会人の「学び返し」の場としても機能することを目指し、将来的にはプロフェッショナルコース(PC)を並行して運用する教育体系を計画している。具体的には、卒業生の学び返し、大学院での教職免許更新プロセス、現職の外国語担当教員を対象にした IT 学習環境のデザイン設計、多言語教育の現場体験、中等部・高等部における外国語教育の人材育成、日本語教育人材育成、在外公館や在外派遣人材の育成、行政や民間企業の言語人材育成、異文化間教育、ツーリズム分野での人材育成、大学等の高等研究機関における研究者としての人材育成などが可能性として挙げられる。また、提携先の大学や教育研究機関への学生派遣・受け入れを通して、インターンシップ、フィールドワークの導入、遠隔システムを用いた共同授業の運営、タンドムシステムを通じた研究支援が活動内容として計画内容に挙げられている。言語活動に関わる横断的分野を射程に、教育・行政・経営・メディア等への人材育成を目指すうえで、個別の研究活動のみならず、協働学習の場を通してこそ、気づきを伴う AP 活動ができるものとする。

4. 2021年度までの関連業績（抜粋）

2021年度
<学術誌>

・ **Ikumi Waragai** & Andreas Meyer: Autonomes Lernen und Selbststeuerung - Hybrides Lerndesign für den Deutschunterricht an einer japanischen Hochschule. In: DAAD-Fachtag E-Learning offline und online, 9.10.2021.

・ Andreas Meyer & **Ikumi Waragai**: Kommunikationsverhalten und Lernstrategien von Lernenden am Beispiel von deutsch-japanischen Telekollaborationsprojekten. Lektorenrundbrief Nr. 54. LeRuBri August 2021, pp.18-24. ISSN 2434-5369. 8. 2021.

- ・ **Ikumi Waragai**: Die Problematik der Translation geistiger Weltvorstellungen
- ein Roman des japanischen Schriftstellers Mishima Yukio und dessen deutsche Übersetzung - . XIV. Kongress der Internationalen Vereinigung für Germanistik (IVG)
Palermo 26.7.-2.8.2020 „Wege der Germanistik in transkulturellen Perspektiven“.
- ・ **Ikumi Waragai**: Die Lokalisierung geistiger Weltvorstellungen in der Übersetzung literarischer Werke –
Verwendung von biblischer Sprache in der deutschsprachigen Übersetzung des Romans Der Seemann, der die See
verriet von Yukio Mishima –. Peter Lang Verlag (in print)
- ・ **Ikumi Waragai**, Tatsuya Ohta & Andreas Meyer: Zur Individualisierung von digitalen Lernumgebungen: die App
Platzwit neu. Peter Lang Verlag (in print)
- ・ **西川葉澄、茂木良治、小西英則** (2021). 「遠隔でどのようにフランス語を教えるか」、*Etudes didactiques
du FLE au Japon*、第 30 号、2021 年 6 月、pp. 17-28.
- ・ **西川葉澄** (2021). 「オンラインの授業と学びのコミュニティ：「快」の記憶と仲間作り」、*Rencontres*、
第 35 号、2021 年 7 月、pp. 50-54.
- ・ **松木瑠子** (2021) 「高校でのフランス語学習経験と学習者の自己変容：学習者のライフステージに着目
して」『*Rencontres*』35, pp.110-114.
- ・ **松木瑠子** (2022) 「高校での複言語学習の経験と学習者による自己省察：高校生・大学生・社会人への
アンケート調査に基づく分析と考察」『*複言語・多言語教育研究*』9 (3月発行予定、査読付) .
- ・ **Yukiko Sato, Stefan Brückner**, Jin Michael Splichal, **Ikumi Waragai, Shuichi Kurabayashi** (2022): Cross-
Regional Analysis of RRM Design and Implementation in Mobile Games by Developers in China, the EU, Japan, and
the USA. *Entertainment Computing*, 24 pages (under review).

<学会等発表>

- ・ Andreas Meyer & **Ikumi Waragai** (2022 年 8 月発表予定): Kommunikationsstrategien der Teilnehmenden in
universitären Telekollaborationsprojekten. IDT(die XVII Internationale Tagung der Deutschlehrerinnen und
Deutschlehrer) in Wien (採択済み)
- ・ **Yukiko Sato & Stefan Brückner** (2022 年 8 月発表予定): Gestaltung eines plurilingualen und interkulturellen
Sprachunterrichts im digitalen Zeitalter: Eine Analyse der Integration von digitalen Applikationen zur Verbindung
formaler und informeller Lernumgebungen im Fremdsprachenunterricht. IDT(die XVII Internationale Tagung der
Deutschlehrerinnen und Deutschlehrer) in Wien (採択済み)
- ・ **Stefan Brückner & Yukiko Sato** (2022 年 8 月発表予定): “Spielend lernen – Aber wie?” Entwicklung von
Selektions- und Integrationskriterien für die Verwendung von kommerziellen digitalen Spielen im
Fremdsprachenunterricht. IDT(die XVII Internationale Tagung der Deutschlehrerinnen und Deutschlehrer) in Wien
(採択済み)
- ・ **Stefan Brückner** (2021 年 7 月発表予定): Tourists in a Virtual World: Theorizing the Cross-Cultural Dynamics
of Video Game Play. 2022 Conference of the International Association for Media and Communication Research,
Beijing/Online (under review).
- ・ **西川葉澄** (2021 年 4 月 17 日開催) : 「オンラインでブレインストーミングをする方法」、Péka
(Pédagogie を考える会) 4 月例会
- ・ **西川葉澄** (2022 年 3 月 29 日開催予定) : 「Table ronde : 発音どうしてる？—どこまでやるか・どう教え
るか・何に気をつけているか—」 (第 36 回関西フランス語教育研究会)
- ・ **Hiroki Fujitani** : 「Oral History research on Hikikomoris by the researcher who was Hikikomori International
Congress of Psychology 2021 年 7 月 20 日
- ・ **藤谷悠** : 「ひきこもる声と代弁する声—当事者性・代表性・専門性をめぐるポジションナリティについて
—」 (第 4 回声のつながり研究会 (声の主体による文化・社会構築研究会) 2021 年 9 月 1 日)

・松本瑠子：「複言語・複文化能力の観点から見るフランスの中等教育課程における日本語教育のあり方：仏日の指導要領および授業実践者への意識調査から」（第24回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム）2021年8月28日、オンライン開催。

（その他）

・藁谷郁美(2021). ベートーベン／劇音楽「エグモント」作品84（全曲）ドイツ語翻訳ならびに台本寄稿. 公演名「すみだ平和祈念コンサート2021 秋山和慶&新日本フィルハーモニー交響楽団」. 2021年3月10日公演

・藁谷郁美 (2022年3月24日開催予定)：鉄道移動空間を対象とした外国語学習環境デザインの構築 - インフォーマル・ラーニングの射程と変遷 - In: JR 東日本 2021年度 慶應義塾大学寄附講座「交通運輸情報プロジェクト」報告会

・國枝孝弘 (2021) 「声と言葉・物語・文学の距離 - 喪失を書く現代フランス作家のいくつかの事例から -」（第三回声の主体による文化・社会構築研究会 - 声のつながり研究会）

・西川葉澄(2021). NHK Eテレ『旅するためのフランス語』（再放送）監修及び出演、2021年4月号～2021年9月号

・西川葉澄(2021). 『旅するためのフランス語』テキスト（NHK出版）、監修及び執筆、2021年4月号～2021年9月号

・佐藤友紀子(2022年3月24日開催予定)：質的・量的アプローチを統合したテキスト分析手法の開発：コロナ禍に関する報道メディア受容過程の日独米比較. In: JR 東日本 2021年度 慶應義塾大学寄附講座「交通運輸情報プロジェクト」報告会.

・Stefan Brückner (2022年3月24日開催予定)：Virtual Worlds as Tourist Destinations: Conceptualizing Push and Pull Factors in the Emerging Metaverse. In: JR 東日本 2021年度 慶應義塾大学寄附講座「交通運輸情報プロジェクト」報告会.

・Stefan Brückner (2021年12月4日開催)：Jenseits von Gamification und Serious Games: Zum utopischen Potenzial digitaler Spiele im formellen universitären Fremdsprachenunterricht. In: Workshop Utopie Universität. Eine Ideensammlung. Online Lecture Series „Im Apparat“.

・佐藤友紀子 (2021)：コロナ禍報道への質的分析と大規模機械学習を統合したメディア受容過程の日独米比較. 文部科学省・日本学術振興会, 科学研究費助成事業, 若手研究, 補助金, 代表.

2020年度

<博士論文>

・S. Brückner (2020): Play Across Cultural Borders: An Explorative Cross-Cultural Study of Digital Game Player Experience by Analyzing User Reviews and Think-Aloud Protocols. PhD Thesis. Keio University.

<学術誌>

・Y. Sato, S. Brückner, M. Pušnik. (2020). A Cross-Cultural Newspaper Content Analysis: Smart Cities in Japanese and Slovenian Newspapers. In: M. Tropmann-Frick, B. Thalheim, H. Jaakkola, Y. Kiyoki, & N. Yoshida (Eds.), Information Modelling and Knowledge Bases XXXII. pp. 247-256. IOS Press. DOI: 10.3233/FAIA200833.

<学会等発表>

・Y. Sato, S. Brückner, S. Kurabayashi, I. Waragai. (2020). An Empirical Taxonomy of Monetized Random Reward Mechanisms in Games. In: Proceedings of DIGRA 2020. Tampere, Finland, June 3-6 2020, Tampere University. http://www.digra.org/wp-content/uploads/digital-library/DiGRA_2020_paper_168.pdf.

・Y. Sato, S. Brückner, M. Pušnik. (2020). Smart Cities through the Lens of News: A Comparative Content Analysis of Japanese and Slovenian Newspapers. In: 30th International Conference on Information Modelling and Knowledge Bases EJC (European Japanese Conference) 2020. Online, June 8-9 2020.

- ・ **Y. Sato**, H. Hanaoka, H. Engström & **S. Kurabayashi**. (2020). An Education Model for Game Development by A Swedish-Japanese Industry-Academia Alliance. In: Proceedings of the 2020 IEEE Conference on Games (CoG). pp. 328-335. Online, August 24-27 2020. IEEE. DOI: 10.1109/CoG47356.2020.9231558.
- ・ T. Karlsson, **Y. Sato** & **S. Kurabayashi**. (2020). Investigating the Elusive Role of Level Design. In: Proceedings of IEEE Conference on Games (CoG). pp. 584-587, August 24-27 2020. IEEE. DOI: 10.1109/CoG47356.2020.9231624.
- ・ A. Meyer & **I. Waragai** (2020). Kommunikationsverhalten und Lernstrategien in Telekollaborationsprojekten vor dem Hintergrund sich verändernder Lernumgebungen. In: Virtueller Austausch und Telekollaboration im universitären DaF-Unterricht DAAD-Fachseminar für Ortslektor*innen in Japan. 02.–04. Oktober 2020 [ONLINE].
- ・ **藁谷郁美** (2021年3月22日開催) : 日本近代化の先導者とそのモビリティ – 時系列で見るドイツ語圏留学生の移動軌跡追跡調査 – In: JR 東日本 2020 年度 慶應義塾大学寄附講座「交通運輸情報プロジェクト」報告会
- ・ **佐藤友紀子** (2021年3月22日開催) : Smart Stations in Smart Cities in Japan, Germany and the USA – In: JR 東日本 2020 年度 慶應義塾大学寄附講座「交通運輸情報プロジェクト」報告会.
- ・ **S. Brückner** (2021年3月22日開催) : Cross-Cultural User Research: Adapting Lessons from Video Game Studies to Analyze Experiences In: JR 東日本 2020 年度 慶應義塾大学寄附講座「交通運輸情報プロジェクト」報告会.
- ・ **西川葉澄** (2020年4月18日開催) : 「<遠隔>でどのようにフランス語を教えるか」、Péka (Pédagogie を考える会) 4月例会
- ・ **西川葉澄** (2021年3月28日開催) : 「オンラインの授業と学びのコミュニティ: 「快」の記憶と仲間作り」 (第35回関西フランス語教育研究会)

<その他>

- ・ **Y. Sato**. (2020). PBL-based Industry-Academia Game Development Education. In: Lee N. (Eds.) Encyclopedia of Computer Graphics and Games, 12 pages, Springer, Cham, 2020.
- ・ **Y. Sato**. (2020). Cross-Cultural Game Studies,” In: Lee N. (Eds.) Encyclopedia of Computer Graphics and Games, 8 pages, Springer, Cham, 2020.
- ・ **藁谷郁美** (2020). ベートーベン／劇音楽「エグモント」作品8 4 (全曲) ドイツ語翻訳ならびに台本寄稿. 公演名「オーケストラでつなぐ希望のシンフォニー」演奏: 広島交響楽団, 指揮: 下野竜也, 後援: NHK 広島放送局. 2020年10月17日公演, 2020年11月22日, 2021年1月18日放映 (番組名「オーケストラでつなぐ希望のシンフォニー」)
- ・ **藁谷郁美** (2020). ベートーベン／劇音楽「エグモント」作品8 4 (全曲) ドイツ語翻訳ならびに台本寄稿. 公演名「すみだ平和祈念コンサート 2021 秋山和慶&新日本フィルハーモニー交響楽団」. 2021年3月10日公演
- ・ **西川葉澄** (2020). NHK Eテレ『旅するフランス語』 (再放送) 監修及び出演、2020年4月号～2020年9月号
- ・ **西川葉澄** (2020). 『旅するフランス語』テキスト (NHK 出版)、監修及び執筆、2020年4月号～2020年9月号
- ・ **西川葉澄** (2020). NHK eテレ『旅するためのフランス語』監修及び出演、2020年10月～2021年3月
- ・ **西川葉澄** (2020). 『旅するためのフランス語』テキスト (NHK 出版)、監修及び執筆、2020年10月号～2021年3月号、2020年10月～2021年3月

2019 年度

- ・ **藁谷郁美** (2019). 「サイバー空間を教科書にする – 学習環境デザインのすすめ」
In: 「紙の教科書を超えろ！」第8回 教育 IT ソリューション EXPO, 於: 青海展示場 2019年6月/19日(招待講演)
- ・ **Y. Sato**, **S. Brückner** (2019). Christian Elements in the News: Analyzing the News Coverage of the 2011 Great East Japan Earthquake in Japan, Germany and the USA. In: Information Modelling and Knowledge Bases XXX, Vol. 30, IOS Press.
- ・ **S. Brückner**, **Y. Sato**, **S. Kurabayashi**, **I. Waragai** (2019). Exploring Cultural Differences in Game Reception: JRPGs in Germany and Japan. In: Selected papers of DIGRA International 2018.
- ・ **藁谷郁美** (2019). サイバー空間への「ライティング」アウトプット – ドイツ語学習環境の構築 - („Schreiben“ im Cyberspace – Gestaltung der individuellen Lernumgebung -) 『ドイツ語教育』No. 24 (2020年4月発行予定)
- ・ **Ikumi Waragai** (2019). Gestaltung einer Lernumgebung im Cyberspace – Entwicklung der Applikation „Platzweit neu“ für das Fremdsprachenlernen (サイバー空間を学習環境デザインに – ドイツ語学習アプリケーション

「Platzwit neu」の開発) In: „Beyond Reality“ – Zeitgemäße Bildung mit Extended Reality & Lernumgebung im Cyberspace」於 ゲーテ・インスティトゥート東京, 2020年1月27日(招待講演)

・ Ikumi Waragai, Makoto Ishii, Yukiko Sato, Stefan Brückner, Andreas Meyer, Shuichi Kurabayashi and Tatsuya Ohta (2019). Development and evaluation of the mobile application Platzwit neu: Daily life as an integrated informal learning environment for foreign language learning. In: the EuroCALL 2019 conference, UCLouvain in collaboration with KU Leuven, in Louvain-la-Neuve, Belgium, from 28 to 31 August 2019

・ Stefan Brückner, Shuichi Kurabayashi, Yukiko Sato, Ikumi Waragai(2019). "Chartering the Context: Player Experience Across Cultures", (Doctoral Consortium).

2019年8月8日: "Analyzing random reward system mechanics and social perception", (Session 6D: Game Business)

・ 藁谷郁美(2020). 移動と待機の空間デザイン – DB(ドイツ鉄道)サービスの視点 – JR 東日本-慶應義塾大学 共同研究プロジェクト (交通運輸情報プロジェクト成果報告会) 於: JR 東日本本社(2020年3月26日)

・ 藁谷郁美(2020). 「ドイツにおける三島文学の受容と翻訳 – 表現手段としての宗教言語 – (Die Problematik der Translation geistiger Weltvorstellung)」 In: 南山大学地域教育研究センター共同研究「翻訳と通訳の過去・現在・未来—多言語と多文化を結んで—」2020年1月16日(招待講演)

・ 藁谷郁美(2019). NHK ラジオ「まいにちドイツ語」入門編. 2019年10月号~2020年3月号テキスト. NHK 出版

・ 藤谷悠(2019). 「教室外学習の場づくりをする者と参加者との関係の考察: タンデムラーニングプロジェクトの運営を事例として」, 言語文化教育研究国際研究集会, 2019年12月9日, タンロン大学 (ベトナム・ハノイ)

・ 西山教行、國枝孝弘、平松尚子(2019). 「ヨーロッパの言語文化をどのように教えるか、どのように学ぶか」 (2019年度フランス語教授法研究会)

・ KUNIEDA Takahiro (2019). « Réflexion et esprit critique à travers l'éducation interculturelle » (8ème congrès international de l'association Education et diversité linguistique et culturelle, Lisbonne, 2019)

・ 西山教行、國枝孝弘、平松尚子(2019). 「ヨーロッパ: 多言語世界の歴史と現在を知る」 (日本フランス語教育学会 2019年度大会)

・ 藤谷悠 (2019). ハーフとひきこもりの部分的つながり—複言語・複文化性の原点回帰と「移動」概念の再定義, 『言語文化教育研究』17, pp.339-359, (査読付)

・ 國枝孝弘(2019)「外国語学習における相互文化教育を通したリフレクションと批判精神の育成について」 (KEIO SFC JOURNAL Vol.19, No.2 2020年3月)

・ パトリス・ルロワ、國枝孝弘(2019)「Réflexion」(朝日出版社)

・ 西山教行・國枝孝弘・平松尚子訳(2019).クロード・トリュショ『多言語世界ヨーロッパ』(大修館書店2019)

・ Hasumi NISHIKAWA(2019). « Analyse de nouvelles tendances dans l'enseignement du FLE au Japon : Innovation et durabilité », Colloque international conjoint 2019, « L'enseignement de français en Asie-Pacifique : Tradition et tendance », Université nationale de Monglie, septembre 2019.

・ 西川葉澄(2019). 「文法初学者のストレスの回避と学習習慣の深化のために」、Rencontres、第32号、2019年7月、pp. 46-50.

・ 西川葉澄(2019). NHK eテレ『旅するフランス語』監修及び出演、2019年10月~2020年3月

・ 西川葉澄(2019)『旅するフランス語』テキスト (NHK 出版)、監修及び執筆、2019年10月号~2020年3月号、2019年10月~2020年3月

2018年度

・ Marco Raindl& Ikumi Waragai(2018). Situiertes mobiles Lernen im Zielsprachenland – Zur Entwicklung von Apps für japanische Deutschlernende. In: (invited lecture) Zur Entwicklung digitaler Werkzeuge des Lehrens und Lernens von Fremdsprachen. Universität Jena (25. Juli 2018)

・ S. Brückner, Y. Sato, S. Kurabayashi, I. Waragai. (2019). Exploring Cultural Differences in Game Reception: JRPGs in Germany and Japan. In: Selected papers of DIGRA International 2018. (In press).

・ S. Brückner, Y. Sato, I. Waragai, S. Kurabayashi. (2018). The Handling of Personal Information in Mobile Games. In: A.D. Cheock, M. Inamai, T. Romão (Eds.), In: Advances in Computer Entertainment Technology 14th International Conference, ACE 2017, Proceedings. Springer. DOI: 10.1007/978-3-319-76270-8_29.

・ S. Brückner, Y. Sato, I. Waragai, S. Kurabayashi. Exploring Cultural Differences in Game Reception: JRPGs in Germany. DIGRA (Conference of the Digital Games Research Association) 2018. Turin, Italy, July 25-28 2018. University of Turin.

・ Y. Sato, S. Brückner. (2019). Christian Elements in the News: Analyzing the News Coverage of the 2011 Great East Japan Earthquake in Japan, Germany and the USA. In: Information Modelling and Knowledge Bases XXX, Vol.

30, IOS Press. (In press).

・ S. Brückner, Y. Sato. Replaying Japan 2018. Examining the Differences in German and Japanese Play Experience: A Grounded Theory Approach. Nottingham, UK, Aug. 20-22 2018. National Videogame Arcade.

・ 藁谷郁美. NHK E テレ 旅するドイツ語 「時空を超える Berlin」 シリーズ. 2018 年 4 月号～2019 年 3 月号 テキスト. NHK 出版

・ 藁谷郁美. NHK ラジオ 「まいにちドイツ語」 入門編. 2018 年 10 月号～2019 年 3 月号テキスト. NHK 出版

・ Trace, J. (accepted). Clozing the gap. How far do cloze items actually measure? *Language Testing*.

・ Brown J. D., & Trace, J. (2018). Examining listening comprehension across measures of scripted and connected speech. In E. Wagner & G. Ockey (Eds.), *Assessing L2 listening: Moving towards authenticity* (pp. 45–66). Amsterdam, the Netherlands: John Benjamins.

・ Trace, J. (2018). Cloze test item validation of L2 and L1 performance using Mechanical Turk. Paper presented at the **Language Testing Research Colloquium (LTRC)** conference, Auckland, New Zealand, July, 2018.

・ Trace, J. & Brown, J. D. (2018). The impact of connected speech on item difficulty in L2 listening assessment. Paper presented at the **Language Testing Research Colloquium (LTRC)** conference, Auckland, New Zealand, July, 2018.

・ Nakahama, Y. (forthcoming). Does referent marking style transfer from L1 Japanese to L2 English in J. Ryan & P. Crosthwaite (Eds.). *Referring in a second language: Studies on reference to person in a multilingual world*. Abingdon, England: Routledge.

・ Nakahama, Y. (December, 2018). Effects of L2 exposure on the use of discourse devices in L2 storytelling in L. Pickering and V. Evans (Eds.), *Language Learning, Discourse and Cognition: Studies in the tradition of Andrea Tyler*. John Benjamins Press.

・ 國枝孝弘、パトリス・ルロワ 『Réflexion』 (朝日出版社 2019)

・ 國枝孝弘、パトリス・ルロワ « Réflexion sur la participation des étudiants »

(2018 年度フランス語教授法研究会)12 月 9 日. 於：東京国際フランス学園(Lycée français international de Tokyo)

・ KUNIEDA Takahiro « La mise en pratique de l'interculturel en classe de FLE » (Colloque international conjoint 2018 Taïwan)

・ 西川葉澄、白石嘉治、谷口清彦 『Train train』 (朝日出版社 2019)

・ 西川葉澄 「学習者の能動性を喚起する授業のために」、*Etudes didactiques du FLE au Japon*、第 27 号、2018 年 6 月、pp. 46-57.

・ 西川葉澄 「フランス語のクラスにおける言語の多様性について」 (国際研究集会「CLIL とバイリンガリズム」シンポジウム「学習者の共有規定言語能力をどう伸ばすか」) 7 月 15 日. 於：慶應義塾大学(日吉キャンパス)

・ 西川葉澄 「文法初学者のスムーズな離陸のために」 (第 1 回フランス語教授法研究会) 12 月 9 日 於：東京国際フランス学園 (Lycée français international de Tokyo)

・ 西川葉澄 「文法初学者のストレスの回避と学習習慣の定着のために」 (第 33 回関西フランス語教育研究会) 2019 年 3 月 25 日. 於：上田安子服飾専門学校(大阪)

・ 藤谷悠 「タンデム学習活動の実践・分析・考察：学習者同士が相互包摂的關係を構築する教室外での学び」 (日本フランス語教育学会 2018 年度春季大会) 6 月 2 日. 於：慶應義塾大学(三田キャンパス)

・ 藤谷悠、松木瑤子、國枝孝弘 「教師はいつ教師になるのか：「学びのドーナツ論」における二人称的他者(YOU)として」 (第 33 回関西フランス語教育研究会) 2019 年 3 月 25 日. 於：上田安子服飾専門学校(大阪)

2017 年度

・ 國枝孝弘 「高校における第二外国語の問題と可能性」 (第 32 回関西フランス語教育研究会) 2017 年 3 月 27 日. 於：上田安子服飾専門学校(大阪)

・ 西川葉澄 « Une diversité de langues dans la classe de français », 第 30 回獨協大学フランス語教授法研究会報告 2017 年 3 月 1 日発行 pp. 15-17.

・ Trace, J. Brown, J. D., Rodriguez, J. (2017). Databank on Stakeholder Views of Technology in Language Learning Tools. *Second Language Studies*, 36(1), 53-73.

・ Trace, J. (submitted). Clozing the gap. How far do cloze items actually measure?

- Trace, J. & Brown, J. D. (2018). The characteristics of connected-speech dictation items in second language listening assessment. Paper to be presented at the American Association of Applied Linguistics (AAAL) conference, Chicago, Illinois, March, 2018.
- Trace, J. (2018). Tabletop board gaming, tasks, and affordances for learning. Poster to be presented at the American Association of Applied Linguistics (AAAL) conference, Chicago, Illinois, March, 2018.

- 西川葉澄「上智大学言語教育研究センターにおける初習 5 言語による Language Exchange の試み～フランス語ケースの分析～」, *Bulletin « Rencontres »* 第 31 号, 2017 年 7 月, pp. 67-71.

- 中浜優子 (編著) 「日本語教育への道しるべ 第 4 巻 ことばのみかたを知る」 2017 凡人社

- I. Waragai, Y. Kiyoki, S. Kurabayashi, T. Ohta, M. Raindl, Y. Sato & S. Brückner. "Construction and Evaluation of an Integrated Formal/Informal Learning Environment for Foreign Language Learning Across Real and Virtual Spaces". The 25th EUROCALL : the European Association for Computer Assisted Language Learning, Southampton, UK, Aug 2017. "EUROCALL 2017" edited by Kate Borthwick, Linda Bradley, and Sylvie Thouésny, pp. 719-731.
- Y. Sato, I. Rachmawan, S. Brückner, I. Waragai, Y. Kiyoki. "Combining Formal and Informal Learning: The Use of an Application to Enhance Information Gathering and Sharing Competence in a Foreign Language". The 25th EUROCALL : the European Association for Computer Assisted Language Learning, Southampton, UK, Aug 2017. "EUROCALL 2017" edited by Kate Borthwick, Linda Bradley, and Sylvie Thouésny, pp. 616-629.
- S. Brückner, Y. Sato, I. Waragai, S. Kurabayashi. "The Handling of Personal Information in Mobile Games". 14th International Conference on Advances in Computer Entertainment Technology, London, UK Dec 2017.
- Ikumi Waragai, Marco Raindl, Tatsuya Ohta: "Prima Plus 2 (A2), Deutsch für junge Leute in Japan" (プリマ・プラス) Asahi Verlag & Cornelsen Verlag, Tokio 2017.